

<連載 11>

創立15周年(来年2月)に向けて

ささえあい生協の「価値を高め、地域に発信し」「結束を強め、仲間の輪を広げよう！」

理事長 高見 優

● 創立14年と3か月余…。いま、ささえあい生協は1500人以上の組合員の出資金約1億3千万円を基にして、250人余の職員が19の事業所+本部で就労し、事業高9億6千万円超の事業を運営しています。

2019年度の利用者は、介護保険事業283人、相談支援事業665人、各種セミナー・イベント参加と天寿園カフェきまま利用が5005人、サロン・ド・笑天街2598人、合計8551人となっています。そのほかに、ひと人ネット主催の組合員ミニ旅行、葡萄の木の「楽しく歌う会」「パソコン教室」「ペン習字」「スマホ教室」や「ささえあい農園」「ささえあい農場」「鬼ヶ島(三条)」「地域懇談会」「座禅会」等々の多種多様の活動を展開し、さらに最近、組合員向けの生活支援事業「へるぶs」や家電販売(コスモスベリーズ)の取り組みが好評です。

○このように、14年余で事業・活動・組織とも急成長していますが、これらはすべて組合員、役職員そして地域の皆様のご理解とご支援のおかげです。しかし、当生協の急成長だけでなく近年の社会情勢の激変に上手く対応することができているか心配です(新型コロナウイルス災害の状況もあります)。

当生協の事業・活動に関するガバナンス・マネジメントにおいて、不適切な対応によってご迷惑をおかけしている点が出てきているのではないかと、思います。

そこで、創立15周年(2021年2月)を一つの区切りとして、過去を振り返り、現在を見つめ問題・課題を共有し、新しい目標を打ち立て未来に向かいたいと思うのです。

●冒頭のスローガンは、6月28日の2020通常総代会で提案する「新年度事業計画」の一部です。

私たちは、ささえあい生協そして地域社会をよりよいものにするを目標としてきました。そのためにまずやるべきこと＝「2020年スローガン」は、自らの価値を自覚し自信をもって発信し、足元を固め結束して地域に輪を広げよう、と思うのです。ささえあい生協が一丸となって……!

この先1年かけて当生協の総力をあげて議論し知恵を出し合い、協力して中長期夢ビジョンを見直し、より具体的でわかりやすい新しい目標をつくりましょう。それを15周年記念イベントで発表しよう!

たとえば、役職員の若返り・後継づくり、本部事務所の移転、事業・業務の在り方、就労条件の見直し、組合員増やし、広報活動・地域づくりの展開、超高齢社会「生涯現役」はどうか、労働者協同組合法制定後の仕事おこし、高齢・障がい・生活困窮・子育て・教育・就労・医療介護・住宅ほか生活支援・総合ケアの拠点づくり…等々、夢を語り合いたいと思います。

○新型コロナウイルスの感染の危機——この社会・世界・地球はどうなるのか?

梅雨の季節です。童謡「あめふり」の歌詞(北原白秋)は、ピッチピッチ チャップチャップ ランランランと楽しそう。確かに1・2番は「おむかい うれしいな」「かあさんのあとから ゆこゆこ」と。しかし3番「あのこは ずぶぬれだ やなぎの ねかたで ないている」お迎えのない子。そして4番「かあさん ぼくのを かしましよか きみきみ このかさ さしたまえ」、5番「ぼくなら いいんだ かあさんの おおきな じゃのめにはいってく」。この歌詞を見て、「男の子は優しい」、だが迎えのこない子はきっと「ひがんでいる」という感想もある(北原白秋の人生に思いを致して?)。皆さんはどう思いますか?

●私たちは、新潟県フードバンク連絡協議会「こどもの未来応援プロジェクト」で主にひとり親家庭に食品・衣類等を届ける運動に取り組んでいます。これまでにない多くの人から支援要請が来る、そしてこれまでになく広がりのある支援が届けられている。新しい地域共生社会が誕生しつつあるのかもしれない。と同時に、お迎えのある子・ない子、この違いそのものを埋めることこそが目標でなければならない、と思います。「SDGs」誰一人取り残さない社会を!

(ご感想・ご意見をお寄せください：編集部)